


ふりがな	げばしゅうへんいせき	
遺跡名	下馬周辺遺跡 (鎌倉市No.200遺跡)	
調査期間	20100617～20110630	
所在地	鎌倉市由比ガ浜二丁目	
時代	中世 近世	

更新日:平成25年7月1日

調査原因	鎌倉警察署新庁舎建設に伴う事前の埋蔵文化財発掘調査
遺跡位置	鎌倉駅から南に約600m、若宮大路沿いに位置する。
主な調査成果	<p>遺跡名にもなっている「下馬」は、鶴岡八幡宮への敬意を表して馬から下りたことに由来します。下馬交差点付近では、天文二十二年(1553)に建立されたと推測される一ノ鳥居が発見されています。この下馬一帯は海から続く砂丘を主体とした地形です。この砂丘地からは、これまでの発掘調査で竪穴建物やお墓などの中世遺構や遺物が多数見つっています。</p> <p>今回の調査でも竪穴建物が多数見つかかり、28号竪穴建物からは鎧や銭が見つかったことは、これまでご報告したとおりです。この他にも、35号竪穴建物から写真のような大きな甕が底面から見つっています。愛知県の常滑窯で作られた大甕で、直径は1m弱もありました。発掘調査ではこの他にもかわらけや陶磁器など中世遺物がコンテナ箱に400箱以上出土しています。</p> <p>現在は竪穴建物、かわらけや陶磁器の図化など、出土品等整理作業を行ってあります。今後、竪穴建物の性質や変遷、出土遺物との関係性などの検討を行っていきます。</p>



▲ 35号竪穴建物 常滑大甕出土状況



▲ 北地区 全景